

親子の料理コンクール

近年、少子高齢化の進展、人口減少社会の到来、価値観の多様化とライフスタイルの変化など、私達を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。子育ての環境にも大きく影響し、家族とふれあう時間が十分に取れず、地域との関りも薄れ、子供たちには様々な問題がおこっています。

そこで、まず家族や親子の絆を深めるために家庭内のコミュニケーションが重要ではないかと、当推進委員会では、今年度初めて“親子の料理コンクール”を企画しました。日頃忙しい親子で料理をすることを通して、一緒におしゃべりしながら作業することの楽しさやお互いのよさや頑張りに気づき、より絆が深まればよいと考えました。

当日は、お母さんと姉弟、お父さんと三人兄弟、お父さんと娘さん、おばあちゃんと孫等全4チームが挑戦しました。2時間で3品、材料費は1500円という規定の中、はじめは少し緊張気味でしたが次第にいつもの調子で、どの家族も楽しく会話しながら料理を楽しんでいました。

日頃からおばあちゃんのお手伝いをしているとかで、子供専用の小さいマイ包丁や脚立持参で大張り切りの女の子。オールボーイズのお父さんは3人の子供それぞれにできる作業を上手に与えて飽きさせず楽しめるように一生懸命。まるでカフェのオシャレなメニューのように丁寧に楽しみながら作り上げたり、我が家ならではのオリジナリティあふれるメニューだったり、、、

調理終了後、チームの料理の自慢をPRしてもらい、みんなで互いの料理を見たり食べ合ったりしました。どの家族も力を合わせて頑張ったという達成感と美味しかったという満足感で笑顔いっぱいでした。（H・C）



第2回

射水市
男女共同参画
川柳コンクール

最優秀賞

パパの背に すっかり馴染んだ おんぶ紐（牧 純次）

優秀賞

家事をして 妻の苦勞と 手抜き知る（江尻 昭）

性別の「くせに」「らしさ」は 過去のこと（中島 直子）

活動日誌

5月8日(月) ● 総会・研修会

5月8日(月)、総会・研修会を行いました。研修会では長井教育長を招き、男女共同参画は子どもの頃から身につけていくもの、また、食卓を家族で囲むことの重要性等について、お話していただきました。子どもたちが通う学校において、男女の地位は平等かという市民意識調査(H27)の設問では、回答者の過半数の51%の方が平等であると回答しました。これは、男女共同参画社会の実現のために必要不可欠なことです。今後も学校教育の場はもちろん、ほかの分野においても平等であると感じる方が増えるよう、啓発活動に力を入れていきたいです。



8月6日(日) ● 大門(二口)地区 そば打ち体験教室



講師に中野克彦先生を迎えて「そば打ち体験教室」を行った。

はじめに、そば粉に対するアレルギーなどの注意点や打ち方の基本を丁寧に教わり、いよいよ取り掛かった。

そば粉や水の分量をきちんと量り、「水回し」から「こねる」作業へと進んだ。なかなか思うようにまとまらず、少々手こずっていたが、なんとか「のし」から「切る」ところまでいった。最後に一人ずつ自分の打ったそばを美味しく堪能した。思っていたよりもかなり難しく、そば名人には頭が下がる

思いだった。

後で、先生の打ったそばを頂いたが、まさしくプロの味で美味しかった。

(M・M)

8月25日(金)・26日(土) ● 大島地区 おおしまファミリー元気事業

「男女共同参画社会を構築し、地域住民相互の親睦を図り活気ある街づくりをしよう」というおおしまファミリー元気事業、その第一弾が劇団殿様ランチの講演です。地元出身者の劇団ということで、みんな興味津々、子どもたち、パパ、ママ、祖父母三世代のたくさんの方で会場はいっぱい。内容は富山弁はもちろん富山らしさ満載で最初はクスクス、次第にアハハ、ワハハの大笑い。和やかな雰囲気の中、新たな力、元気をもらい、明日も頑張ろうという気持ちになりました。劇団観賞という機会がまたあればいいな、みんなで笑えてよかったという声をたくさん頂きました。

(M・K)



10月14日(土) ● 小杉(黒河)地区 コーヒーの淹れ方教室



家でも美味しくコーヒーを飲みたい！と熱い思いを抱く参加者23名で開催。まずはレジメをもとに、生豆・焙煎・抽出等コーヒーの味を決める基本的要素についてのお話。その後デモンストレーションを見て、テイスティング。そしていよいよグループ毎にお好みの豆をミルして抽出。先生の淹れられたものや他のグループのものと味比べ。部屋中に美味しいコーヒーが香りたちまち大賑わい。次はこうしてみたらどうなるかな？と色々な淹れ方を試してみる。そんな探究こそコーヒーの楽しみなんだということを教わりました。コーヒー素人でも大丈夫！男女問わず誰とでも楽しめるコーヒーに乾杯！

(H・C)

大門5地区 文化祭 ●..... 10月22日◎ ほか

10月22日(日)櫛田の里まつりに参加。

「子どもの健康を守る5つの食育」をテーマに寸劇を行いました。①食べ物を選ぶ力②元気な体がわかる力③食べ物の味がわかる力④料理ができる力⑤食べ物の命を感じる力を取り入れた寸劇です。会場からは手をたたく人又大きくうなずく人。この寸劇を通して少なからず啓発できたのではと思います。食育を通して大人も子どもも「性別役割分担意識」をなくしていけば「男女共同社会」の形成につながっていくと思います。今年は視覚に訴えることを意識して大きなプラカードを取り入れた事がより分かりやすく感じられたのではないのでしょうか。(Y・K)



コーヒーマの淹れ方教室 下地区 ●..... 11月25日◎



コーヒーマを毎日飲むという人は多いと思います。美味しいコーヒーマを楽しみながら淹れ、至福のひとつときを過ごしましょうと教室を開催しました。

生豆を焙煎し、室内は香ばしいコーヒーマの香りにつつまれながらの始まり。講師が豆を挽き、お湯の注ぎ方を説明しながら質疑応答もあり、コーヒーマの淹れ方を見学。各自豆を選び挽き、お湯を注ぐ時の注意点(高さ・速度・注ぎ方)を意識しながら淹れてみる。同じ豆でも、各自の淹れ方により違いを味わうことができました。コーヒーマの味を決める基本的要素「よい生豆を使用し、適切な焙煎を行い、相応しい抽出をする」⇒美味しいコーヒーマ以上をもとに自分流の淹れ方で楽しめば良いと思いました。教室を始める前に、資料で男女共同参画の活動内容を伝えるとともに、男女共同参画という事業名を意識していただければとお願いしました。

(S・S)

クリスマスケーキ作り教室 新湊(放生津)地区 ●..... 12月24日◎

12月24日に法土寺公民館にて、3世代20名が集まり、クリスマスケーキ作りをしました。

初めてケーキを作る人が多い中、スポンジに生クリームをうまくコーティング出来なくて四苦八苦。

お年寄りの方は「こんな年になってケーキを作れるなんて」と、とても喜んでおられ、小さい子供は手伝おうとする大人の手を払いのけて、自分なりのケーキを作っていました。

色々の果実、カスタードクリーム、イチゴのサンタさんを作り、上に飾りつけました。

みなさん、大満足で帰られました。

(H・M)



啓発活動



5月 風まつり



6月 男女共同参画週間



12月 女性に対する暴力をなくす運動

7月9日 2017『子育てフェスティバルinいみず』

平成29年7月9日(日)に、小杉社会福祉会館にて2017「子育てフェスティバルinいみず」が開催され、私たち推進委員会も準備から当日の運営・ワークショップ並びにステージ発表にかかわらせていただきました。

この事業は、射水市内で「子育て・子育て」を応援している15団体による共同事業で開催され、今年3年目となりました。

当推進委員会は、ワークショップではペットボトルを使い小物入れづくりを、ステージ発表では「子どもの食育」～子供の健康を守る5つの力～と題し、家族の夕食時の寸劇を実施しました。子どもの時から正しい「食事」を通して、家族が一緒に過ごす家族団らんが子どもの安心感を育み健全な成長につながり、家事を分担することで、家族の一員である意識と責任感が生まれ、感謝する心や認め合う心が育ち、与えられた仕事をやりとげれば達成感を持つことで「また頑張ろう」という意欲にもつながります。家族という基本的で小さな社会で心身の健康と共同意識を育めば「男女共同参画社会」の形成につながると思い実施しました。

また、私たち推進委員会が主催した「男女共同参画川柳コンクール」の作品展示も行い、来場者の方々にもワークライフバランスや性別役割分担意識等、男女共同参画社会について考えていただける良いきっかけになったと思います。

これからも単体だけでなく、他の団体の方々と交流し多くの方々に男女共同参画社会実現の輪を広げていければ良いと感じました。

(M・Y)



9月24日 女と男のパートナー会議

平成29年9月24日(日)、富山県と高岡市、氷見市、射水市の男女共同参画推進員の共催で、射水市大島絵本館シアターにおいて「女と男のパートナー会議」を開催しました。

瀬山和子委員長のあいさつで始まり、富山県より「男女共同参画における富山県の取り組み」説明が行われました。そして、射水市男女共同参画推進委員による寸劇「子どもの食育」を上演し、子育てフェスティバルinいみずの実施報告を行いました。その後、澤武紀行氏(テノール・オペラ歌手)による「ドイツに生活して見て思う事～Mann und Frau～」と題して、対談形式での講演がありました。

対談では、欧州は日本のように男性・女性という性的区別はなく、基本女性が上位のレディーファースト社会なので、DV・男性→女性という事はきかれないが、女性→男性という事はあるようです。家庭では、夫婦でバランスをとりながら育児・子育てをし、妻の指導で夫が細々と働く様子がみられる。

ドイツでは、言語や表現の違いを思い知らされ、日本に帰りたくなった時もあり、日本の母の声に慰められ、周囲の多くの人にも慰められました。欧州では、男女というより人種や移民が大きく関与し、「いつからロミオが東洋人になったの」「おまえが来たからドイツ人の仕事をとられた」と言われたこともあるそうです。

日本では、声楽家の社会的地位は確立されていません。しかし、欧州では、確立され注目される職種です。異国の地で、いろいろな苦労をされ男性女性ではなく、ひとりの人間として自分の伝えたいことを言語や行動でしっかりと表現していく事が大事であることを対談から実感しました。

対談の途中途中で、素敵な歌声がきかれ、最後の『愛の賛歌』の素晴らしい歌声には魅了されました。

(S・S)



1月23日 DV研修会

1月23日(火)に、富山県警察本部 生活安全部生活安全課の方を講師にDV研修会を行いました。年々DVの被害者は増え、わたしたちの身の回りでも起こっているかもしれないということを改めて感じました。被害者に対して、わたしたちができることは少ないかもしれませんが、しかし、SOSを出している被害者に対して相談できる場所として警察を紹介することはできると思います。被害者が苦しむことが少しでも減るように、啓発活動を行っていききたいと思います。



編集後記

2017年の流行語大賞の候補に「働き方改革」があがっていました。2015年に「一億総活躍社会」が提唱され、2016年に「一億総活躍プラン」の延長として「働き方改革」を推進しています。改革が実現にむけて企業が社会がかわることは、女性だけでなく、男性にとってもワークライフバランスがとれ、より豊かな生活につながると考えられます。男性女性にとらわれず、自分らしく生きられる社会実現のための環境整備。まずは地域の環境づくりに啓発活動が、地域の人たちの意識改革につながるように今後も行っていききたいと思います。

(S・S)